

町史だより

『町史のはなし』

西原町史は、十二月一日～六日までの間、那覇市民ギャラリーで開催された「沖縄県地域史資料展」に出展しました。

この展示会は、県や各市町村の地域史を編集する機関が加盟している、沖縄県地域史協議会の結成二十周年を記念して開かれました。

北は今帰仁村から南は竹富町までの二十五機関が参加し、各機関のあゆみや、特色ある写真、地図資料、貴重資料などを展示。



これまで発行された西原町史

西原町史もそのあゆみをはじめ、中山家文書や戦前に行なわれた綱曳の写真、終戦直後の地形図（米軍作成）などを出展しました。ここでみなさんに、西原町史のあゆみを紹介してみたいと思います。

『西原町史』の編集は、昭和四十一年、『西原村誌』の発行が計画されたことに始まります。

その目的は、西原の先人達が残した文化や歴史を、広く町民に知っていただき、それを後世に伝えるとともに、これからの西原をつくりあげていく礎とすることにあります。

これまで、「西原の文献資料」「西原の戦時記録」「西原の民俗」「西原の考古」「西原の民話」の五巻を発刊してきました。

その間、編集事務局の改編や、幾度かの発行計画の見直しが行われ、現在は全十五巻の発行に向け、

編集作業が進められています。

目下、事務局は町役場文化広報課内にあつて、「西原の移民」「西原の産業」「西原の言語」を編集集中。同時に関係する資料の収集も行っております。

事務局では、この巻も「西原」という地域の特色、そして町民の方々がみえてくるものにしていきたいと考えています。

あゆみの文章をしたためながら、西原町史の編集も、計画からはや三十一年が経過しているんだなあ、とあらためておどろきました。

また、展示会場では、各機関の刊行物の販売も行われました。地域の特色は、刊行する本のひとつひとつにもあらわれているものです。例えば、沖縄市の『ロクとコザ』や『エイサー360』は、うまく地域の特徴をとらえているなあ、と同業者ながら関心。おっと、感心している場合ではないのだ。西原町史も、町民のみなさんが「知りたい、読みたい、買いたい」と思えるような本づくりをめざしていくつもりです。